

とよなか

(部内資料)

「希望の英語教育へ」和歌山大江利川先生のブログ



教え子を再び戦場に送るな！ 2019年7月3日発行NO. 602

小学校来年度使用教科書採択年度 職場・学校で検討をおこなおう！

	日清戦争 日露戦争後の記述部分
A社	その後、アメリカのなかだちで講和条約が結ばれ、ロシアは韓国からしりぞくことなどが決められました。アジアの国の日本がヨーロッパの国であるロシアに勝利したことは、欧米諸国の進出と支配に苦しむアジア諸国の人々に独立への自覚と希望を与えました。
B社	欧米諸国の支配のもとにおかれたアジアには、日本がヨーロッパの大国・ロシアに勝利したことに勇気づけられた人々もいました。その一方で、日本人の間には、朝鮮や中国の人々を下に見る意識がしだいに広がっていきました。
C社	中国やロシアに対する日本の勝利は、欧米諸国に日本の力を認めさせ、欧米の支配に苦しむアジアの国々を勇気づけました。一方で、朝鮮や中国の人々を下に見る態度が日本人の間に広がっていききっかけにもなりました。

教科書会社によって 記述もちがいます！

教科書の巡回が行われて
います。小学校で来年度
から使用される教科書採
択がこの夏行われます。
かつては(約二十年前)、
各学校で教科ごとに分か
れて時間をかけて、子ど
もたちにとつてどの教科
書がいいのか検討をして
いました。学校からいい
と思う教科書を選び、学
校や教員の声がかなり反
映した採択制度でした。
しかし、今は、見本本
の巡回が3日程度(2巡)
しかなくじっくり教科書
を見る時間もなく、ほと

ILO・ユネスコ教員の地位に関する勧告

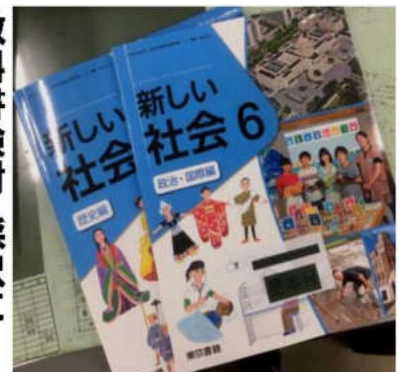
61「教員は～中略～教育当局の援助を受けて教材の選択と採用、教科書の選択、教育方法の採用などについて不可欠な役割を与えられるべき」 1966年

日本弁護士連合会意見書

「教科用図書採択においては、子どもの学習権を保障するために、教師及び学校的意思を十分に尊重することを求める」 2014年12月19日

んど私たちの知らないところ
で教科書がきめられてい
るかのようです。(8月の教
育委員会会議で採択。)
教員の声 提出しよう！
私たちは、ユネスコの教
員地位に関する勧告や日
本弁護士会の意見書にあ
るよう、もっと教員の声
を反映した教科書採択
ですが、今の制度のもと
でも、私たちの眼で教科
書を見比べて、意見を提
出することが大切だと考
えます。

教科書検討・採択に 当たっての基本的視点



① 自然や社会についての基本的事項が真理。真実に基づいて記述されているか。

② 発達段階や認識の筋道に沿った適切な内容が、順序だてて組み立てられているか。

③ 子どもたちにとって楽しく、学習意欲を引き出す教材で、確かな学力や豊かな情操を育む学習内容になっているか。

④ 日本国憲法の平和と民主主義の精神に則った内容になっているか。

※巡回が終わった学校は市教育センターで7月5日(金)19時まで教科書が展示されています。学校所見締切は7月12日までです。

改訂学習指導要領を考える(3)

英語教育の早期化と強化で 英語ざらいが増える？

来年度小学校で使用される教科書の巡回も終盤。英語の教科書を見られましたか。かつて、中一でドキドキしながら初めて英語と出会い、THIS IS A PENと学んだ人からすると驚きの内容です。

五年生から難しい内容と

なっています。

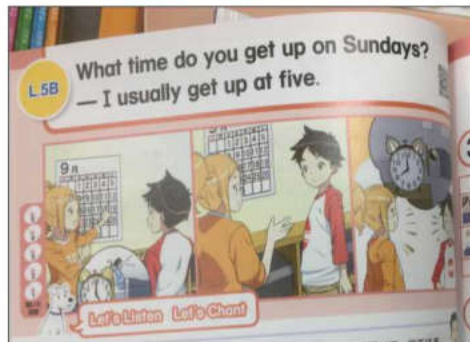
来年度から3・4年生で週一時間の「外国語活動」、5・6年生で週二時間の「外国語科」がスタート。

表のように学習内容がずつと難しくなると、子どもたちの学習負担が大幅に増えます。また、英語の免許を持つていない多くの小学校教員にも大きな負担です。

「早く学んだ方が身につく？」

江利川春雄さん（和歌山大）は「英語は早く学んだ方が身につく」という主張に「根拠・実証のない思い込み」であり、「中途半端な小学校英語は百害あって一利なし」と批判しています。

中学年は「母語」である日本語を身につける上で大事な時期です。ていねいな指導が必要で、そこに言葉の構造のちがう英語が入ってくる事は子どもにとって大きな負担となります。



来年度使用の英語教科書
わからない子が増えないか心配！

英語の導入の真のねらいは グローバル人材の養成！

大学入試での民間検定試験導入検討など、グローバル企業に奉仕する「人材」養成を考える官邸主導の施策（教育再生実行会議）で上位1割のエリート層に特化するものです。すべての子どもたちに確かな学力を身につけさせたという教職員の願いに応えるものとはちがいます。



ウクライナ編その1

以前、こちらにインドの

秘境ラダックについての駄文を数回ほど書いたところ、いろいろな方からプラスの反響をいただいた。ありがたい話である。毎日慌ただしい仕事に追われている皆さんの、ほんのちよこっとした息抜きになれば幸いと思いい、今回再登場することに。不定期連載ということではしお付き合いください。

さて、今回は今年のGWについて。普段のGWならばあまり海外には出かけない。人が多いし何より航空券がバカ高いから。でも今年は特別だ。5月に10連休なんて、そうそうあるもんじゃやない。だからちよこっと遠出をして春のヨーロッパに行くことにした。

わお、まとも、と思いきや、行き先はウクライナ。「またなんでそんなところに…」と言われそうだが、大都市や人が多い所は苦手なんだから仕方ない。

ウクライナといえば旧ソ連。現在はクリミア危機もあって、ロシアとは仲があまりよろしくないが。そしてボルシチ発祥の地（らしい）。さらに美人が多いと

いう噂もある。

でも昭和な私にとっては、ウクライナ＝チェルノブイリ原発。そう、約30年前に史上最悪の（と言われる）原発事故を起こした場所だ。そこが今は人類の負の遺産、ダークツーリズムの地としての観光客を迎え入れているのだ。もちろん健康被害が出ないよう配慮されているし、しっかりガイドの説明付き。調べてみるとなかなかツアー会社の評判もいい。ならば行かねばなるまいよ。そんなこんなで無事に行き先を決定し、諸々のボタンをポチった私であった。（つづく）

綱島 典子（小曾根小）



ウクライナの物価は安い。
安食堂だとこれで500円程度。